

住信為替ニュース

THE SUMITOMO TRUST & BANKING CO., LTD FX NEWS

第2020号 2010年05月31日(月)

《 fragile but steady consolidation process 》

引き続き市場は不安定である。欧州には依然として火種がある。先週の後半はスペインだった。フィッチの格下げで、それまで数日間にわたって上げていたこともあって、ユーロと株の反落が誘発された。「欧州への不安」は材料としてはだいぶ消化されてきたというより、新鮮度を失ってきたが、それでも次々に新材料として出てくる状況がある。しかし先週筆者が指摘したとおり、相場には根源的強さが徐々に顔を出す場面が見られた。株式市場は徐々に世界的に強さを取り戻しており、「逃避通貨」となった円高は対ドルよりも対豪州や対ニュージーでかなり是正された。

今の状況、つまり地固めの状態が続くのか、それとももう一度下を試すのかは、今週から開かれる一連の国際会議でどのような合意が出来るのか、各国がそれぞれの国の財政政策や金融市場改革、それに規制で合意できるのかにもかかっている。具体的には週末から韓国の釜山で開かれる20カ国・地域(G20)財務相会合が注目される。この会議はもともと、6月末にカナダで開かれるG8やG20の前哨戦の会議だが、5月の下旬にヨーロッパを中心に世界を飛び回ったガイトナー財務長官と各国財務相の間でどのような話し合いが持たれ、その内容が世界的な会合の場でどのような合意に繋がりそうかが分かる。

今の世界経済が抱えている問題は、各国の政治状況とも密接に関連する問題であって、ギリシャもそうだが、指導者間で合意が出来たといって、それが直ぐに状況の改善に繋がるわけではない。政治家は民主主義国では最後は選挙民によって決められる。例えばギリシャの現政権が次の選挙で負ければ、繊細に組み立てられた同国とEU、それにIMFなどとの合意がどうなるかは分からない。

しかしそれでも市場は、例えば金融市場規制(ドイツが導入している株への空売り規制などを含めて)や「(各国の配慮せざるを得ない)全般的な財政政策運営の指針」などに強い興味を寄せることになろう。なぜなら、そういう一步一步の努力が市場の信頼に繋がっていくことは明らかだからだ。その意味では、大きな市場の混乱を経た後の6月の一連の国際会議は、「今後の世界の各国が、市場の信頼を取り戻す方向で合意出来るのかどうか」の点において、極めて重要である。少なくとも

1. アメリカとドイツ、日本など主要国の間で、「市場の監視や規制」に関して大枠としての合意が成立すること

2. それに関連して、各国の現政権が「財政規律」に関して大まかな方向性として「健全化」の方向を打つ出す

ことが必要である。これは南ヨーロッパで第二、第三のギリシャを出さないためにも、各先進国の財政に対する市場の懸念を和らげておく必要がある。その点において、主要国でありながら、現政権の支持率が危険水域まで落ち込み、一部世論調査によると首相自身の退陣を望む声が全体の6割を超える水準になった日本の政治混迷は、先行きに対する不安感の一因になっていると言える。あと今週注目される指標としては、米5月の雇用統計など。

《 Is North Korea changing ? 》

ところで、今日は朝鮮半島での緊張の高まりである北朝鮮で何が起きているのか、現状はどうなっているのかについて、最近同国を訪れた日本のジャーナリスト6人の意見を聞く機会があったので、その時に私が纏めた印象をここにも掲載しておきます。あまりに情報のない国だけに、市場に携わっている人間にとって、「北朝鮮とはどういう国か」と頭に入れておいた方が良い情報だと思うからです。

同国を訪れた日本のジャーナリスト達の会合があったのは、5月の下旬でした。「北朝鮮の最新事情」に関する勉強会」として開かれた。彼らの訪問は、ちょうど5月の初めに金正日総書記が訪中していた時期に当たる。北朝鮮については以前から私自身が行きたいと思っているのですが、なかなか行けない。しょうがないので行った人の話を聞こうと思って出席したもの。行かれた方は6人で何回も行ったことのある人、今回が初めての方とばらけている。

まず、過去に何回も行ったことがある人は、「北朝鮮は変わった」「自分が行ってない8年の間に」（その人にとっても8年ぶりだそうです）と盛んに言う。何が変わったかという

1. 平壤では交通量が増加（中古ベンツの増加、トロリーではない普通のバスの増加）
2. マシンとしてのコンピューターとケイタイの増加
3. 建設ブームで、特にレストランが増加
4. 自転車が増え、特に地方では必須の交通手段になっていた
5. 彼らが前回は行った2000年の最初に比べれば、市民の表情は明るくなっている

といった点を指摘した。映像や写真も少し見せていただいたのですが、私は「これで人が多くなったのか」という意外感があった。しかし過去を知っている方々は「以前は車がほとんど走っていなかった」と。「それに比べれば」と言われた。私には比較のしようがないが、彼らの表現はそうだった。

「2」のコンピューターについては、図書館の本の検索などで数多く使われているらしい。ただインターネットにつながっているマシンはごく少数。大部分は閉じられたシステムの中で使用されているようだ。実際に使われていると思われるケイタイについては写真を見せてもらったが、裕福な家庭の子女だろうか、女子中学生とおぼしき子供達の一人が使っていた。もっとも、今北朝鮮で使われているケイタイ（非合法を除く）はわずかに10～12万台だそうだ。超貴重品ということだ。

「3」のレストランについて言うと、初めて平壤にイタリアレストランが出来たのが話題だったとか。食べたら「スパゲッティは太くて緩くて首を傾げたが、ピザはいける」と。しかし、開いているのはレストランばかりで、デノミ後の混乱からか商店（モノを売る）が閉まっている店が多かったと。

あと報告で面白かったのは、中国の人たちの北朝鮮観光の増加が著しいらしい。私も板門店を韓国サイドから見たことが二度ありますが、そのときは韓国側が賑やかで、北は建物に洗濯物が見えただけ。ところが、今は韓国側が閑散としているのに対して、北朝鮮側には数百人の中国人観光客がいて賑やかだとか。観光客を受け入れる商店では、中国の人民元紙幣が使われており、ユーロとともに歓迎される通貨の一番手。円は全く歓迎されなくなっていると。まあ貿易がないのだから、彼らは円をもらっても使いようがない。以前は円が一番歓迎される通貨だったとか。

行かれた方は、いろいろな制約を受け入れて行ったらしい。1) 日本から持って行ったケイタイは空港で没収、帰国の際に返還 2) 以前は無料で配られた各種パンフレットは、すべて有料になっていた 3) 当然北朝鮮政府の役人が常に付いていて、行ける場所、見られる場所が非常に限られている一など。マーケットも見せてもらえなかった、という。

《 638 dollar per capita 》

一応の説明が終わって Q&A の時間に入ったので、私から質問しました。それは、北朝鮮がよく使い、日本のテレビでもよく登場する「2012年強盛大国とはいったいなんぞや」と思っていたので、その点に関して。返ってきた答えは予想外に詳しい数字を伴っていて面白かった。訪朝したジャーナリストの方々は、北朝鮮の責任ある人から次のような数字を明らかにされたというのです。これは参考になる。

1. 2007年の北朝鮮の国民一人当たりの GDP は638ドルだった
2. 北朝鮮の同 GDP が一番過去高かったのは1980年代の2530ドルだった
3. 強盛大国のまず最初の目標は、国民一人当たりの GDP を80年代(2530ドル)に戻すことだ

これは面白い発言、数字だと思いました。北朝鮮はほとんど国の経済について公式な統計を発表しない国です。しかしこの端数のついた数字といい、日本のジャーナリスト達が

受けた印象は、「今北朝鮮政府が得ている数字そのものではないか」というものだったという。

当然ながら今の北朝鮮の国民一人当たり GDP は世界の最貧国に近い。中国の五分之一、よって日本の五十分の一。あと数字で面白かったのは、「北朝鮮の人口は直近の数字で2005万人」というもの。私が以前覚えた北朝鮮の人口は2400万人だったので、それと比べれば400万人近くも減っている。

では、「強盛大国」とはもっと具体的にはどうか。北朝鮮に行った一人のジャーナリストの方は、「彼の国では、白いご飯と白いスープが日常の目標」と。それも強盛大国の目標に入っているというのです。私は以前から、日本のマスコミが強盛大国をそのまま報じているのは誤解を招くと思っていたのですが、この説明でその思いを強くしました。つまり、「言葉の遊び」なのです。

開放経済の失敗をデノミで調整しようとしている北朝鮮。これからどういう道を歩もうとしているのか。説明からは、「社会主義建設の維持と実利」ということのようにです。つまり、失敗しているのに社会主義を諦めない。かつ、社会主義の実利を得ていく、と。まあ依然として理解不能な道を行くと言うことです。

行かれた方々が最後に、これからのキーワードとして挙げられたのが「CNC」(Computerized Numerical Control)。「CNC」の大きな看板が市内の中心部に掲げられているようで、それが後継者と見られている金正雲氏を意味しているらしい。「CNCの歌」というのも出来ているようだ。彼はスイスに留学していたので、英語は出来る。コンピューターにも強いのか？

コンピューターをうまく使おうということか。貧しい、行き詰まった国の再建の為にだ。まあ数少ないコンピューターもネットにもつながっていない今の状況では効果は薄いでしょう。もしかしたらネットで国を立て直した韓国を好例として見ているのかもしれない。正雲氏の「雲」はもしかしたら、「クラウド」に繋がりたいのかもしれない..... などと思いました。むろん、半分冗談ですが。

為替レートに関しては、訪朝した方々は北朝鮮の新ウォンについて「1円が0.9円程度」と紹介してくれて、さらに「北朝鮮の方々の月給の平均は4000円程度」と言っていた。ベトナムの工場で働く20歳前後の女子の月給が8000円だから、北朝鮮の方々の給与はその二分の一ということだ。

《 several key numbers later this week 》

今週の主な予定は以下の通り。

5月31日(月)

4月鉱工業生産(速報)

4月住宅着工

4月建設受注

米国市場休場(Memorial Day)

6月1日(火)	英国市場休場(バンクホリデー) ギリシャ利付き10年債償還 印度1-3月GDP 2010年日中経済協力会議 4月新車販売 米5月ISM製造業景気指数 米4月建設支出 中国5月PMI製造業 豪4月小売売上高 豪金融政策委員会
6月2日(水)	5月米国内自動車販売 韓国市場休場(選挙のため)
6月3日(木)	法人企業統計(5月調査) 米5月ADP雇用統計 米1-3月非農業部門労働生産性(確定値) 米1-3月非農業部門単位労働費用 米4月製造業受注 米5月ISM非製造業景況指数 米5月ICSCチェーンストア売上高 ブラジル市場休場
6月4日(金)	米5月雇用統計 G20財務相・中央銀行総裁会議

《 have a nice week 》

週末はいかがでしたか。それにしても寒かった。土曜日はちょうど富士山麓でゴルフだったのですが、とても半袖でやるというような雰囲気ではなかった。多分13度くらい。今年是非常に温度の変化が激しい。風邪を引いている人も多い。お気を付けて。そうそう面白い話がありました。メンバーに非常に太った人がいたのです。ところがあの寒さの中を半袖で登場した。そしたらキャディさんが私に小声で、「あの方、ミートテックですか？」と。私はもうこれを聞いた瞬間に崩れそうになりました。物理的に。そのままスコアもあまり良くなかった。ははは。

それにしても、この週末の日経新聞のニュースによると、ニューヨークのブロードウェイに活気が戻ってきているらしい。「不況の影響で客足が遠のき、人気作品の打ち切りが続いた昨年初めまでの厳しさから一転。今は空き劇場が全くない状態だ。ハリウッド俳優やミュージシャンが参加する話題作の相次ぐ公開も観客層を広げており、ニューヨーク観光の目玉として復活を遂げつつある。」と記事は伝えていた。1~2年前の不況の最中には劇

場はがらがらだった。私も2008年の暮れに2回行ったので、「このままニューヨークはどうなるのだろう」と思った。

しかしニューヨークの立ち直りは素早い。世界中から人、モノ、カネが集まりますから。今ではチケット売り場に長蛇の列らしい。「劇場を押さえるのが大変」とも。私はまだ見ていないのですが、歌手であったフランク・シナトラの音楽に最新ダンスを組み合わせたミュージカル「カム・フライ・アウェー」などを手掛ける演劇プロデューサーなども嬉しい悲鳴を上げているとか。

日本の街にも早く活気が戻って欲しいと思っています。まあ、あまりにも政治が混迷しているので、ちょっと遅れるのですが。それでは皆さんには良い一週間を。

《当「ニュース」は住信基礎研究所首席研究員の伊藤(E-mail ycaster@gol.com)の相場見解を記したものであり、住友信託銀行の見通しとは必ずしも一致しません。本ニュースのデータは各種の情報源から入手したものです。正確性、完全性を全面的に保証するものではありません。また、作成時点で入手可能なデータに基づき経済・金融情報を提供するものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終決定はお客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。》